

## 世界の農業を救う電子化(AI)自動栽培装置

### あらゆる栽培環境に対応

このシステムの基本的な構造は、根の部分の空間を密閉し、その中に超音波加湿器を入れ、液肥を微細ミスト化・循環・回収しながら根に供給するシステム（図1. 参照）で、外部から一切の夾雑物の浸入を防止できます。また、葉から蒸散する最小限の水分と液肥中の肥料を自動的に補給する、AIによる自動栽培が可能な植生栽培システムで、**高効率で安全・安心な植生を提供**できます。

更に、DC（直流）駆動ですので、電源を太陽電池化でき、また、水不足の過酷な環境条件下でも使用でき、更に、LEDを使用する人工光栽培も可能ですので、**小改造で砂漠や無重力宇宙空間での植生栽培に適したシステムにも変えられます。**1単位ユニットは非常に小型ですので、数の増減で家庭菜園、レストラン、スーパー等小規模植物工場から大規模ビニールハウス農場まで、また、根菜を除く殆どの野菜を育成可能ですので、非常に幅広い植物栽培用途に対応可能であると考えて居り、この一単位システムでの植物工場の創設を提案します。

有限会社マジマ研究所 代表 眞島 修

略歴 1971年 ソニー（株） 中途入社 主に研究開発業務に従事

2001年 ソニー（株） 定年退職 1年の嘱託勤務を経て、2002年にマジマ研究所設立

図1. 基本ユニット断面図  : 液肥供給  : ミスト循環

